

2023 年春季 参加報告書

参加プログラム：CDC(スタディーツアー)

参加時の学年：2 年、学部：人文、学科：ヨーロッパ文化

自分が今回 CDC での現地実習に参加した目的は、現地実習で実際にドイツで生活することで実用的なドイツ語の能力を身につけるため、またドイツの観光や生活を通してドイツの文化を実際に体験するためでした。帰国して、現在目的の達成度を振り返ってみて、この二つの目的に関してはほぼ達成できたと感じます。実用的なドイツ語の能力についてはドイツ語で話されていることを全て完璧に理解することは今でもまだ難しいです。しかしある程度の簡単な会話なら相手が言おうとしていることの意図はなんとなく掴むことができるようにはなったと思います。私はリスニングが苦手だったのですが、ドイツ語を聞き取る能力が少し伸びたことは成長できた点の 1 つです。

また、ドイツの人々が実際に会話の中でよく使う表現を耳にして自分も会話の時に使ってみる、ということもできたので、そこも成長できたと思います。ドイツの文化を実際に経験するというもう一つの目的も達成できたと思います。ホストマザーが作ってくれた食事やレストランでドイツの食文化に触れ、CDC 側で企画してくれたアクティビティに参加することで、ミュンヘンやミュンヘンの近くの都市にある観光地に行くことで観光ができました。また実際にドイツのスーパーやお店、レストラン、電車などを利用することでドイツの公共施設の利用方法も学ぶことが出来ました。また、今回の現地実習の期間とミュンヘンのカーニバルの日と重なったため、大きな年間行事の一つであるカーニバルにも参加することができました。ミュンヘンはカトリックが根強い地域であるため、カーニバルも盛大に執り行われていて改めてキリスト教、特にカトリックという存在の大きさを感じました。日本ではこれほど大きな宗教の行事というのはなかなかないため、日本とドイツの大きな文化の違いを感じました。よくに印象に残ったアクティビティはザルツブルクの観光です、ザルツブルクは観光地として有名な都市ではあるものの、人が多すぎることがなく、自然も感じられて良い街だと感じました。また文化的にも中心的な都市であり、モーツァルトが生まれた街ということもありモーツァルトにまつわるスポットがたくさんあり、それらも体験することができました。あまり時間がなかったため、ザルツブルクの飲食店に行くことができなかったのですが、私のホストファミリーがザルツブルクのご飯は美味しいと教えてくれたので、もしまたザルツブルクに行く機会があれば、レストランやカフェにも行ってみたいと思いました。このように今回の現地実習で目的としていた二つは達成できたと思うので、実習に参加して良かったと思います。しかし今回の現地実習を通して課題が見つかったことも事実です。それはドイツ語、英語での会話のスキルがまだまだ足りないという点です。留学中は毎回とは言わないまでも、ホストファミリーや他の CDC の生徒や先生と会話している途中で自分が言いたいことが言えなかったり、なんというべきかが分からず、会話が止まってしまうことも多々ありました。今までドイツ語は大学の授業で、英語は中学校の時から授業を受けてはいるものの、授業で習ったことだけでは会話することはなかなか難しいと実感しました。

また、これは相手に言っても良いのだろうかの悩んでしまい結局言いたいことが言えなかった、ということもありました。ホストマザーからも、自分が思っていることをもっと口にした方がいいよ、というアドバイスをしてくれました。このことから異国の人と会話するためにはもっと自分から能動的に、間違いを恐れずに会話を試みるのが大切だと思いました。これから 3 年になると語学の授業は今までよりも少なくなり、さらにドイツ語や英語を使って会話する機会は減っていきます。今回の経験を活かしてこれからは、今までよりも外国語を使って会話する機会を作ることを今後の目標としていきたいと思いました。